

4. 八千代市における「やちよふれあいの農業の郷」構想とは

八千代市の農業を継続し、振興していくためには、この「ふれあいの農業の郷」が農業を中心とした地場産業の核となり、訪れる人たちが何度も利用したくなる場を作ることが最も有効であると考えている。

これがこの「郷」構想であり、当構想区域及びその周辺には、まだ豊かな自然や昔ながらの農村景観が残っているとともに市のシンボルである新川沿いに位置することから、ここを訪れる人たちに八千代市にはこんな身近に素晴らしい農業・農村があるんだということを、そして「ふるさと八千代」を体感してもらい、家族や友人と楽しく半日過ごせるハーフデイパーク＝郷（さと）となればと考えている。

幸いに当構想区域は、主要幹線道路である国道16号沿いにあり、すでにオープンしている「ふるさとステーション」の来館者数が年間80万人を超えていることなど諸条件に恵まれているので、農産物購入の目的で来場する人たち、家族や友人などと緑の中で過ごしたい人たち、そして農業生産者の人たちや商業・工業関係者の人たちにも魅力のある場となるよう検討し、千葉のアグリカルチャースポットとして位置づけ、運営していければと考えている。